

笠岡市議会議員

まなべ陽子のかぶとがに通信

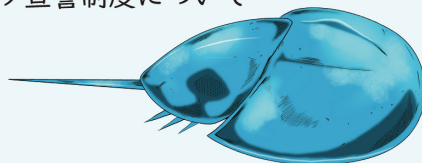
市議会だより 4号 (2022年5月発行)

P.1 パートナーシップ・ファミリーシップ宣誓制度について

P.2-4 個人質問より

P.5 笠岡湾干拓地の可能性について

P.6 日々の活動より 他



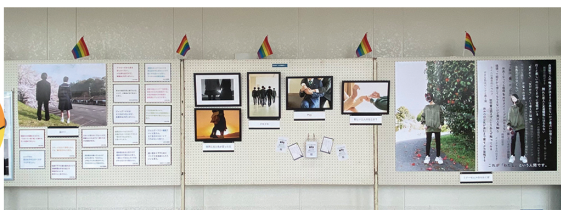
令和2年9月議会個人質問、令和3年9月議会個人質問、令和3年12月議会個人質問において言及させていただいた「笠岡市パートナーシップ・ファミリーシップ宣誓制度」始まりました。

(令和4年4月1日(金)～)

パートナーシップ・ファミリーシップ宣誓制度とは

パートナーシップ・ファミリーシップ宣誓制度とは、お互いの多様性を認め合うことで、すべての人が個性と能力を十分に発揮し、自分らしく生きることができる社会を目指すための制度。

パートナーシップ・ファミリーシップ宣誓制度啓発活動の一貫として、笠岡市役所本庁1階にて写真展が行われたり、さらに枚数を増やし、笠岡市市制施行70周年記念式典においても展示が行われました。



制度がスタートしたこと自体は大変喜ばしいことです。一方で、明石市などでは事実婚の方々にも認められているこの制度の適用が、笠岡市においては認められていません。



多様性を認める社会を掲げるための制度が、あえて狭い定義で運用されることになる。



制度を利用することが自己開示の強制に繋がっている。使いにくい制度だ。

といったご意見もお聞きしています。

少し前に、アセクシャル・アロマンティックの方々が家族になって、助け合いながら暮らそうとしているドラマが非常に話題になっていました。

アセクシャルとは

他者に対して性的欲求を抱くことが少ない、または全く抱くことがないセクシュアリティ

アロマンティックとは

他者に対して恋愛感情を抱かないセクシュアリティ

関連ホームページ

法務省 人権問題に関する各種相談窓口 他



アセクシャル・アロマンティックの方々が一定の割合でいらっしゃることを思えば、いずれ笠岡市でも同じようなケースが出てくるでしょう。今後、たくさんのケースを想定されながら随時、運用の見直しを行なっていただきたい、と引き続き委員会などにおいてお伝えしています。

性的マイノリティの当事者や家族の悩みに対応する福山市の「にじいろ電話相談」について

笠岡市民も対象となりました。

開設日 毎月第3水曜日 15時～18時(無料)

秘密厳守。匿名での相談も可能。

必要に応じて笠岡市人権推進課につないでください。詳細はホームページにて。



笠岡市議会議員の月額報酬を令和4年4月から50万円とせず、第三者機関の特別職報酬等審議会の答申である45万円の通り据え置くことを求める市民請願が2000人以上の署名と共に提出されました。

真鍋はこの請願の紹介者です。詳細はブログにてご確認ください。

QRコードで検索できない場合

「市民請願が提出されました まなべ陽子」

で検索いただけると幸いです。



【議員報酬増額分 寄付先について】 QRコードで検索できない場合「議員報酬増額分 寄付について(令和3年)まなべ陽子」で検索いただけると幸いです。

【議員報酬増額分を寄付するまでに、さまざまにいただいたご意見、そして自ら考えたことについて】 QRコードで検索できない場合「議員報酬増額分を2020熊本水害支援に募金しました。まなべ陽子」

で検索いただけると幸いです。



令和3年 12月議会

【誰もが通いやすい学校となるための制服選択について】

○ ファミリーシップ・パートナーシップ宣誓制度の導入に
合わせ、学校の制服選択をジェンダーレスにできないか。

教育長より

制服に関しては保護者や児童生徒、地域等、広く意見を集めて検討すること、性的マイノリティーに考慮し、全ての児童生徒が制服のことで悩むことがないように、最大限配慮するよう学校に指導している。

今後、教育委員会としては、制服を廃止して私服にすることも含めて、服装等の配慮を提案していく。

笠岡市市制施行70周年記念式典において
ジェンダーフリー制服の展示が行われました。（2022.4.24）



【広報かさおか12月号における障害者週間記事の取り扱いについて】

○ 現状、広報かさおかでは障害者週間についての取り扱いが小さいが、年に一度、12月号においては様々な障害の紹介やヘルプマーク、障害のある方の作品展など、今より大きく取り扱うことはできるか？

健康福祉部長より

令和4年12月の広報かさおかでは、他自治体の広報誌も参考にしながら障害者週間の記事を作成したい。

障害者週間とは

国、地方公共団体、関係団体等において、障害者について様々な意識啓発に係る取組を展開する期間。
（毎年12月3日から12月9日までの1週間）

【移住・定住に関心のある方々に対する補助金情報の提供について】

○ 笠岡市中心市街地空き店舗利用促進補助金、サテライトオフィス等開設サポート補助金などの補助金情報が、移住・定住に関心のある若い方々や女性にも届くようにできるか。

産業部長より

今は若い方や女性に届くような情報発信はできていないが、課題は認識しているので笠岡市全体として取り組んでいきたい。

政策部長より

要望が多いようなら、定住促進センターの支援制度一覧に追加していくなど、制度をPRしていく取り組みを継続して行っていく。

【多層指導モデルMIMの一層の活用について】

○ 多層指導モデルMIMを全域で導入、活用している自治体は全国的にも珍しい。この取り組みをしっかりと根付かせ、早い段階で読み書きに関する子どもたちの困り感を把握し、必要があればタブレットを筆記用具代わりに使うなど、合理的配慮を行うことで一人一人が学びを深めることはできるか。

教育長より

個別の状況に対応する手立てが入っているものが用意できれば、効果的に子どもたちの指導、支援が可能になる。今後その点に関して研究を進めていきたい。

多層指導モデルMIMとは

子どもが「読み」学習につまづく前、つまづきが深刻化する前に「読み」の支援・指導をしていくことを目指す教材。アプリと紙教材がある。

【高校受験における合理的配慮について】

○ 高校受験における合理的配慮について、中学校では早めに保護者に周知をできるか。

教育長より

高校受験時の学力検査における合理的配慮については、令和3年7月に各学校に通知している。

真鍋の視点

高校受験における合理的配慮についてはまだまだ定着していない現状の中、保護者や先生方の認識や意識の違いにより必要性があっても合理的配慮を受けることができていない児童生徒が一人でも少なくなるようにしていただきたい。高校受験における合理的配慮を受けるためには、医師の診断や在学における支援実績が必要となる。必要と見受けられるケースには、早めの周知徹底をお願いしたい。

【個別の教育支援計画の共有について】

○ 主に特別支援教育対象の児童生徒に対して作成される個別の教育支援計画を、対象である児童生徒全ての保護者にお渡しすることを義務化できないか。

教育長より

学校には、コピーを保護者に渡して共有してほしいと指導している。現場の声を聞きながら様式を見直すなど、どの学校でも同じ教育が提供できる環境を整えていきたい。

【新しい教育システムの導入について】

○ 公立小学校において初めてイエナプランを導入した福山市立常石ともに学園のように、笠岡市においても、従来の学校教育から一歩進んだ、将来的な自立や共生により近い形での学校教育環境を整えるという考えはあるか。

教育長より

新しい教育の仕組みの中に、本当に先進地として取り入れられる要素があればしっかりと勉強し、取り入れていきたい。

イエナプランとは

子どもたちを異年齢の「根幹グループ（ファミリー・グループ）」に分けてクラスを編成し、子どもたち一人ひとりを尊重しながら自律と共生を育てることを重視するオープンモデル型の学校教育。ドイツにあるイエナ大学のペーター・ペーターゼンが創始した。

令和4年 3月議会

【移住・定住・関係人口を意識した笠岡市内の景観や市庁舎内の設備について】

○ 笠岡駅を、尾道駅、日立駅のように海沿いの景観を活かした駅にする考えはあるのか。

建設部長より

令和4年度に駅構想の基本設計を行う予定。当然、尾道駅も参考にしている。

○ 就任前から定住促進センターそばのトイレが整備されていないことを指摘している。庁舎の破れた網戸や文字が薄れて読めない看板を長年放置していることは、市外の方に対して笠岡市のイメージダウンにつながる。

市長より

全く微塵も隙間もなく完璧に同意する。限りある予算の中で丁寧にしっかりと直し、外から来られた方たちを温かく迎えるように庁舎を整備していきたい。

【定年後の生きがいづくりについて】

○ 定年を迎えたとはいえ、気力も体力もまだまだ充分ある方が多い中、「生きがいづくりチャレンジ応援事業」として資格取得に係る経費の一部を補助している自治体もある。市内にお住まいの方々が自己啓発のために学び、そこで得た資格を持って様々に活動する、そういったチャレンジを応援することについてどう考えるか？

健康福祉部長より

60代、70代の方々は現役で働いている方も多し。高齢者の資格助成についても今後、先進自治体の事例など研究していきたい。

教育長より

高齢化が進む中でやりがい、生きがい、仕事ということもあるが、何か自分で1つのことに没頭する、生涯学習的な視点でも充実していきたい。

【学校・幼稚園・認定こども園における給食について】

○ 今年度12月10日に、オーガニック食材を給食に使用した。来年度の計画を尋ねる。

教育部長より

来年度もオーガニック食材を使いたいが生産量確保の問題がある。実態に合わせ、より農産物が使われていないもの、産地もできるだけ笠岡産、岡山県産食材を利用していきたい。

こども部長より

認定こども園、保育所においても、今後情報収集をしていく。

教育長より

自校調理をしている島しょ部の給食で可能か検討していく。

○ 笠岡市内で捕獲されたイノシシ肉を将来的に給食献立に使うビジョンはあるか。

教育長より

笠岡市内にはイノシシ肉を販売している業者もなく、衛生管理できる肉業者もないため、現在のところ予定はない。

○ 実際に自治体で処理施設を持ち、学校給食に提供している自治体事例も出てきている。単独では難しくとも広域連携などで処理施設を持つ考えはあるか？

産業部長より

正直、単独では難しいが、いただいたご意見を地元組織、猟友会、近隣市町での話し合いにおいて検討することは可能だ。

○ 地産地消を進める一環として、新山産ハト麦みそを給食献立で提供できないか。

教育長より

給食においては一定量確保の問題があるので、現在使用する状況にはない。

○ 新型コロナウイルス感染症拡大により、これまで見えにくかった貧困、経済格差があらわになってきている今、学校給食の無償化は目指すべき政策ではないか。

市長より

事業効果や優先度を勘案し、現在のところ無償化は考えていない。

真鍋の視点

農林水産省は、持続可能な食料システムの構築に向け緑の食糧システム戦略を策定し、中・長期的な観点から、調達・生産・加工・流通・消費の各段階の取組とカーボンニュートラルなどの環境負荷軽減のイノベーションを推進している中で、2050年までに耕地面積に占める有機農業の取扱い面積の割合を25%に拡大することを目標にしている。

そこでできた有機栽培野菜が学校給食で使用されることで、子どもたちがより安心・安全な給食を食べることができることはもちろん、食育の推進や地域の脱炭素にも貢献ができる。

今後は給食において有機野菜を少しずつでも多く使うことを意識してほしい。

また新型コロナウイルス感染拡大により経済格差がより顕著になった社会の中で、笠岡市に生まれ育つ全ての子どもたちが、せめてお昼御飯だけでもおなかいっぱい食べることができるよう、給食の無償化を要望していく。



【以下は、3月8日の個人質問において冒頭にお話させていただいた内容です】

ロシアによるウクライナへの軍事侵略の犠牲になった多くの命、そして今被害に遭われている多くの方々、多くの地域のことを思い、一刻も早くの撤退、そして平和的解決を望みます。私は、ロシア軍の方々も、（お一人お一人が個人としては）本当に侵攻したかったのかな？と思います。

どれだけそれを望んでいた方がいらっやっただろうかと。武力を伴う戦争などの後には必ず、帰還兵のトラウマ、PTSD、精神疾患の問題が多く出てきます。様々なことを武力ではなく、なるべく知力で解決するために外交があります。外交にこそ人間の力を集めなければいけません。

お互いが理解し合い、違いを認め合いながら共存できる力を子どもたちにつけることができる学びの構築を、笠岡市に切に求めます。

監査横（定住促進センターそば）トイレ改修工事が行われます。



ドアを開けるとすぐに設置されている男性トイレを横切らなければ女性トイレに行けない監査横トイレは、定住促進センターに一番近いトイレ。移住・定住を希望されて笠岡市を訪れてくださる方々がお使いになりたい時、一番近くにあるトイレ。

つまり、市外の方に対する笠岡市の印象を決めてしまうトイレ、と言っても過言ではありません。その非常に重要なこのトイレの現状に気づいた6年前からずっと、職員の方や当時市議会議員だった方に訴えていきましたがなかなか改善されず…なので、あえて個人質問で取り上げさせてもらっていました。笠岡市に関心を持ってくださり、訪れて下さった方々が少しでも使いやすいトイレによりよくなることに、ホッとしています。

フレイル予防事業が始まります。

身体装着ロボットを利用した高齢者の身体機能の維持・向上の効果実証実験が行われます。

かさおか健康ポイント アプリになりました！

歩くことや体重記録、健診の受診などでポイントが貯まるアプリです。令和4年12月末までに8,000ポイントを達成された方みなさんに市内共通商品券5,000円分を進呈します。



詳細はこちら



これまでの個人質問 動画一覧

令和2年6月議会 個人質問

- ① 特別職報酬等審議会について
- ② 2020年4月19日投開票笠岡市市長選挙市議会議員選挙について
- ③ 学校教育について



令和3年6月議会 個人質問

- ① 新型コロナウイルス感染症について
- ② 笠岡市制施行70周年記念事業について
- ③ 移住・定住政策・関係人口について
- ④ 学校教育について
- ⑤ 成年年齢について



令和2年9月議会 個人質問

- ① 新型コロナウイルス感染について
- ② 気候変動対策について
- ③ 10月25日投開票岡山県知事選について
- ④ 引きこもりについて
- ⑤ ヘルプマークについて
- ⑥ パートナーシップ宣誓制度について
- ⑦ 子どもたちの学びの環境について



令和3年9月議会 個人質問

- ① 新型コロナウイルス感染症について
- ② 笠岡市民病院について
- ③ 移住・定住・関係人口政策について
- ④ 学校教育について
- ⑤ パートナーシップ宣誓制度について



令和2年12月議会 個人質問

- ① 新型コロナウイルス感染拡大による笠岡市内における地域経済への影響について
- ② ふるさと納税について
- ③ 気候変動対策について
- ④ 2020年10月25日投開票岡山県知事選について
- ⑤ 笠岡市内における火災件数の推移について
- ⑥ 笠岡市民病院小児科について
- ⑦ 特別支援教育の充実について



令和3年12月議会 個人質問

- ① 新型コロナウイルス感染症の健康への影響について
- ② 障がい者週間について
- ③ 令和3年10月31日投開票第49回衆議院議員選挙について
- ④ ファミリーシップ・パートナーシップ宣誓制度について
- ⑤ 移住・定住・関係人口政策について
- ⑥ 学校教育について



令和3年3月議会 個人質問

- ① 新型コロナウイルス感染症による笠岡市内における市民生活への影響について
- ② 学校教育について
- ③ 笠岡市住宅マスタープランについて
- ④ 移住・定住政策、関係人口政策について



令和4年3月議会 個人質問

- ① 新型コロナウイルス感染症について
- ② 移住・定住・関係人口政策について
- ③ 給食について
- ④ プラスチックごみゼロ宣言について



笠岡湾干拓地の可能性について

現在、レンタル広場として「多目的」に使われている笠岡ふれあい空港を、本来の空港として「多面的」に活用することで笠岡市民がふれあう空港にすることを目的として設立された一般社団法人が実施した



「モーターグライダー活用実証飛行」体験飛行に搭乗しました。(2022.4.18) 詳細はこちら

それからというもの、笠岡湾干拓地の可能性について考えながら時間が空いた時には干拓地に行ってます。これまでも道の駅笠岡ベイファームにはよく行ってましたが、買い物をして、お花を観て、満足して帰る、という感じだったんですね。

私の中で、そこに笠岡ふれあい空港が繋がった。すると



笠岡にはスカイまであるんです！

最初に観た時から「航空機離着陸中 立ち入り禁止」って、なんなんだ？と不思議に思っていたこの場所が、日本国内においては、滑走路の中に公道が走っている唯一の道だと知り驚いて、この風景が私の中で急に貴重なものとして輝いてきたり。もし干拓地の、海につながる場所に港ができれば…

干拓地を拠点にして陸と、海と、空が本当につながると実感。

東京といつつ千葉県にある巨大テーマパークはランドとシーだけで、

しかもこの空、作り物じゃない！

笠岡には **美味しいもの** もたくさんあります。

笠岡ぐるっと博2021スタンプラリー関連記事→



笠岡ぐるっと博に参加されていないお店や、近隣市町村のおいしいお店はこちら→



まずは干拓、道の駅笠岡ベイファームに来ていただければお花を観たり、地場のお野菜や新鮮なお魚、お土産ものなどお買い物ができます。

もし、道の駅笠岡ベイファームの一部に市内観光案内センター機能を

新たに設けることができれば、直接行って笠岡市内のことを相談できるし。

もちろんネットでアクセスできるわかりやすい観光案内総合サイトも整備します。

そこではふれあい空港でグライダーに乗る予約ができたり、乗らなくても飛んでるところを観ながらふれあい空港でゆっくりお茶したり、キッチンカーで買い物をしてランチしたり。 **ただぼんやり空を眺めているだけでもいいですね。**

そこから港に行ってお茶をしたり、時間があったら笠岡諸島へ足を伸ばして、どこかに泊まりたくなくてもセンターや観光案内総合サイトにアクセスをしたらすぐに



情報があって、宿泊予約が取れたり。

もし、笠岡駅南口が笠岡の目玉になるような駅、例えば、海がみえることで有名な日立駅とか、近隣では駅を出たらすぐに水道に面している尾道駅とかそんな駅になったら。

ベイファームに来た方々の中には、せっかく笠岡まで来たのだから駅まで行ってみようかな？と、考える人はけっこういると思います。

その途中には、世界で一つだけのカブトガニ博物館。

東に足を伸ばせば有名映画の撮影場所にもなった景色抜群の海の校舎（旧大島東小学校）、

西に足を伸ばせばこれまた有名映画の撮影場所になった金浦地域、

南に足を伸ばせば世界から注目が集まっている SETOUCHI=瀬戸内 笠岡諸島、

北に足を伸ばせば鉄道マニアが一度は行ってみたいという笠岡市井笠鉄道記念館、

東西南北 どこに向かっても何かがある笠岡市！

あまり知られていないけれど、有名ミュージシャンの聖地巡礼もできます。

「笠岡に行くなら泊りなくちゃね！」と言われる日が、近い気がしてきませんか？

しかもこれ、今存在しているエリア、観光地や近隣の飲食店、様々な施設を繋いで

いるだけ。繋いで、情報提供してるだけ。 なにか、わくわくしてきませんか？

DISCOVER & REMEMBER KASAOKA ! 笠岡をLINKしましょう！



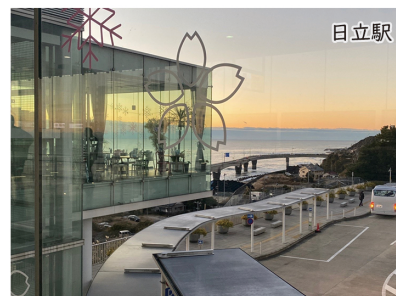
記事全文はこちら



笠岡ふれあい空港にて



笠岡市上空



日立駅



政務活動紹介



第2回 ロボ人ピックin福山 参加しました。 昨年に引き続き、2回目の参加です。(2022.3.12)

ロボ人ピックとは、パワーアシストスーツ等を着用したロボ人による運動会で、昨年が世界初！ではないか、とのこと。

パワーアシストスーツをつけてサバイバルゲームをしたり、電動車椅子に乗ってリレーをしたり、パワーアシストスーツを着用して綱引きなどの競技に参加しました。

各種パワーアシストスーツをはじめ、読みにくい方のためにテキストを読み上げてくれる道具、振動と光によって音の特徴を身体で感じるための道具、歩行に必要な運動機能と姿勢バランス、認知機能を総合的に評価するためにVR（仮想現実）を利用した医療機器など、会場に

はさまざまな最先端機器の展示があり、休憩時間や競技の合間に初めてのVR体験をさせてもらったり、様々な車椅子を体験させてもらいました。

これからは人生、100年時代！と、言われてはいるものの、長生きするのであれば、健康寿命は長くあってほしいというのはほとんどの方の願いだと思います。老化や病気、障害からくる身体の不自由さをもし、道具で解決できるのであれば、これほどよいことはありません。けれど最先端医療機器は高額なことが多く、個人で取り入れることができる方は限られています。だからこそ行政は導入実験などを行い、実際に効果のあるものについては積極的に地域に実装して欲しいです。

増大するいじめ、不登校、暴力、子どもの自殺を減少させるための具体的な政策として、教育バウチャー導入を提案します。

学校教育に使用目的を限定したクーポンを子どもや保護者に直接支給する教育バウチャーを義務教育段階から導入することにより、発達にある種の困難さを持つ児童生徒に限らず、すべての児童生徒が、既存の一斉教育、一斉指導にとらわれることなく、今よりもっと広い視野、

長い視点をもって本人の発達状態や速度をみながら、本人保護者ともに納得のできる進路選択や将来設計を行うことができます。先にあげた児童生徒を取り巻く課題、ブラック化している教師の職場環境、疲弊して繋がりが薄くなってきている地域の課題も解決方向に向かう可能性すらあり、良い流れやシステムが構築された地域であれば、将来的には年々増加している子ども関連福祉予算、医療費関連予算の縮小も期待できます。

日本国憲法で保障されている学習権の保障についても、一人一台タブレットが導入された今だからこそ、公共施設や民間団体の力をお借りし、同じ学習内容を提供しながらも、一人一人の児童生徒に個別最適化された教育環境や支援を用意することができます。

私自身、地域で子どもを育てていく中で、困難な事例に様々に出会い、また深刻な悩みを抱えているたくさんの保護者とも出会う中で、なんとか児童生徒の居場所を増やしたい、学びに対する困難さを支えたい、進路の選択肢を増やしたいと活動してきました。発達に困難さを持つ児童生徒の高校時における進路選択について言えば、選択肢の数は少なく、あったとしても地域は人口集中地区に限られています。また私学や通信制などは学費が高く、補助制度があったとしても、いわゆる一般的なご家庭であっても負担が大きいケースがあり、母子家庭など困窮家庭においてはローンを組みながら在籍しているケースすらあります。2016年4月1日に施行された障害者差別解消法における合理的配慮を受けることができている児童、できていない児童の差も激しく、その積み重ねや学校、教師の理解の度合いにより進路選択の幅や格差も大きくなってきています。

また、不登校の児童生徒を育てているご家庭ではフリースクールなどの民間施設や学校に行けない間に通わせたい塾などのために教育費がかさむ一方で、子どもの見守りや送り迎えのために主に母親が外で働くことができず、家計が苦しくなっているという話も多く聞きます。

小学校、中学校、高校では頑張っているけれど、高校を卒業した後、引きこもり生活が続いている方、大学や社会に出た後、引きこもりをされている方のお話も聞いています。

発達に困難さを持つ児童生徒は、発達しないのではなく、今の学校教育の中では、発達するための条件が見つけにくい、わかっても環境整備がされていない、理解ある先生方や学校長に出会えたご家族は幸運ですが、そうでない場合、担任や学校長に理解を求め、在籍している学校に環境整備してもらうためには精神的な負担、場合によっては経済的な犠牲を伴う保護者の多大な努力が必要で、もしそこで様々にすれ違いがあると、当事者である子どもは二次障害に陥ることが少なくなく、先生方のご負担も増えるばかり。保護者も精神疾患を抱え精神科に通院されているケースすらあります。

高齢化が加速している日本社会の中で、少しでも多くの児童生徒が健やかに育ち、将来的に一人一人にあった環境で働くことのできる大人になるために、今ある教育環境に適應させようとするのではなく、自身にあった環境を児童生徒本人と保護者を選んでいただく。そして選んだ先（選ばれた先）に教育予算を投入することで、その教育環境を育てていく（選ばれない学校教育環境は自然と縮小していく）という政策が必要な時期に来ていると、真鍋は考えています。



【入会団体・賛同団体】

岡山県市議会議員女性の会
自治体議員政策情報センター虹とみどり
立憲主義と地方自治を守る議員の会
気候危機・自治体議員の会

【所属している委員会・審議会】

総務文教委員会
笠岡市都市計画審議会



ホームページ <http://www.manabeyoko-kasaoka.org>

ブログ <http://blog.livedoor.jp/manabeyoko>

Facebook <https://www.facebook.com/manabeyoko>

Instagram https://www.instagram.com/manabe_yoko_k

 manabeyoko.kasaoka@gmail.com



まなべ陽子市政だより「かぶとがに通信」へのご意見・ご要望・ご提案などお聞かせください。どうぞよろしく願っています。